

令和 8 年第 3 回 燕市議会定例会
一般質問日程表

質 問 日		質 問 者		質 問 方 式	
				一括質問	一問一答
9 月 9 日 (水)	午 前	1	高 橋 妙 子 議 員		○
	午 後	2	長 井 由 喜 雄 議 員		○
		3	田 中 淑 子 議 員		○
		4	近 藤 隆 行 議 員		○
1 0 日 (木)	午 前	5	大 島 靖 浩 議 員		○
		6	小 林 由 明 議 員		○
	午 後	7	藤 井 秀 人 議 員		○
		8	田 澤 信 行 議 員		○
		9	岡 山 秀 義 議 員		○
1 1 日 (金)	午 前	10	齋 藤 和 也 議 員		○
		11	稲 村 隆 行 議 員		○
	午 後	12	齋 藤 信 行 議 員	○	
		13	中 山 眞 二 議 員		○
		14	小 林 秋 光 議 員		○
		15	山 崎 光 男 議 員		○
1 4 日 (月)	午 前	16	宮 路 敏 裕 議 員		○
		17	タナカ・キン 議 員		○

令和 8 年第 3 回 燕市議会定例会「一般質問表」

発言 の 順序	発言 する 議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
1	高橋 妙子 (一問一 答方式)	1. 国道 289 号について	(1) 国道 289 号について	八十里越は2027年夏の暫定開通を目指して整備が進んでいます。開通すると三条市と福島県只見町が国道 289号で繋がるので、燕北バイパスも含め、県央地域の交通量(渋滞問題)や物流の変化を考える必要があることを踏まえ、質問させていただきます。 ①国道289号全線開通に向けた事業の進捗状況を伺います。 ②一般国道289号燕北バイパスの現在の事業進捗状況を伺います。
		2. 医療について	(1) 県立吉田 病院について	①県立吉田特別支援学校は令和 9 年度に、燕労災病院跡地へ移転して「県央特別支援学校(仮称)」になる予定ですが、移転後、児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、医療機関との連携と通学環境をどのように維持・改善していくか伺います。 ②県立吉田病院は現在の病院を運営しながら、その敷地内で新病院を建設しております。病院を利用している患者さんや近隣住民への騒音・振動・粉じんの影響をできるだけ小さくすることが求められると考えますが、騒音対策はどのようにされているのか伺います。 ③新病院完成後、現在の仮駐車場をどのように活用、処理するかを検討されているか伺います。 ④地元説明会において、新病院の下水問題に関しての質疑がありました。県立吉田病院では今後、施設の排水設備をどのように安全に維持・管理し、病院から出る特殊な排水による環境や衛生への影響を防ぐかという課題があるかと思いますが、現在の下水処理場を利用するのか、他に計画があるのか伺います。
			(2) 新たな地 域医療構 想(燕市 モデル) について	2040年に向けて、医療需要や医療従事者の不足が見込まれる中、県央基幹病院、県立吉田病院、市内診療所などの役割分担を明確にし、病院・診療所・介護施設の連携を強化することで、限られた医療資源を地域全体で効率的に活用する必要があります。また、オンライン診療などの医療 D X を活用し、医療へのアクセスを確保しながら持続可能な地域医療体制を構築することが重要であることを踏まえ、質問させていただきます。 ①現在、燕市は新潟大学と連携して、ポータブルオンライン診療システムの実証を開始していますが、進捗状況を伺います。 ②オンライン診療システムの実証実験のデータや課題をもとに、地域に合った持続可能な医療モデル(燕市モデル)を作ることが重要だと考えますが、今後どのように普及させ、市民への周知を図っていくのか伺います。

発言 の 順序	発言 する 議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
2	長井 由喜雄 (一問一 答方式)	1. 保育問題 について	(1) 公立・私 立保育施 設の利用 定員の考 え方につ いて	①令和7年度、公立保育施設における利用定員が大きく見直され、入園児数に合わせた利用定員となった。令和8年度についてもいくつかの園で見直しを行ったようだが、基本的な利用定員についての市の考えを伺う。 ②私立園における利用定員については、令和6年度に民営化された2園のスタート時の定員のほか、令和7年度、令和8年度といくつかの園で見直しが行われたようだ。しかしながらそれまでは市から「3年間」は利用定員を維持するよう伝えられた園もあったのではないかと。私立園の利用定員の設定について市の考えを伺う。
			(2) 私立園へ の支援策 の拡充に ついて	①燕市では、保育士を目指す学生への奨学金制度や、年度当初から予想される途中入所を見込んだ保育士配置への補助など「保育士」を対象とした評価される支援策を行っている。一方、その後新たな支援策となった介護施設や障害児者施設などに対する奨学金返還費用補助などは、施設の全体職種を対象としている。保育施設では言うに及ばず調理業務や事務業務などもあって、女性が占める割合が圧倒的なことから、産休、育休、介護、看護などの問題は保育士と同様であり、人材の確保では一律の課題を抱えることになる。人件費の補助を中心として燕市の保育環境が維持されるためにさらなる支援策を行ってほしい。市の考えを伺う。
			(3) 保育をめ ぐる種々 の計画と 現状につ いて	①子供、保育に関する種々の計画については更新等を行う時期にあたるものもあると思うが、急激な少子化なども踏まえ、市の基本的な姿勢について現状における考えを伺う。 ②分水地区における短時間保育について、他の地域と違って「こども園」がないという問題がある。短時間保育の要望、就学前の集団保育の経験を持つことについて市はどう考えるか伺う。

(次ページへ続く)

発言 の 順序	発言 する 議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
2	長井 由喜雄 (一問一 答方式)	1. 保育問題 について	(4) 3歳未満 児の保育 料の無償 化、3歳 以上児の 給食費の 無償化に ついて	①令和元年(2018年)度から保育施設を利用する3歳以上の子供達の「保育料」が無償化され、利用者からは歓迎された。一方で保育料の設定が3歳以上児より高い0、1、2歳児の保育料については無償化されることがなく、親の負担は大きい。国に対し全年齢の保育料無償化を求めるとともに、燕市独自に無償化することを求めるが、市長の考えを伺う。 ②同様に令和元年の3歳以上児の保育料の無償化については、それまで「保育料に含む」とされていた給食について別途徴収されることとなり、保育料の考え方と違って基本的に所得に関係なく一律の金額が課せられている。「給食費」として考える時、小学校では「給食費の無償」が実施された中で、就学前の子供達は給食費を負担するという状況となっている。国に対し全年齢の保育料無償化を求めるとともに、燕市独自に無償化することを求めるが、市長の考えを伺う。
		2. 平和事業 の拡充に ついて	(1) 平和大使 の思いを 市民に伝 え、広げ て行くこ とについて	①「平和大使派遣事業」は今年で17回目を迎えた。90名の中学生と引率職員を含めると100名を超える。これまでも、これが単発事業ではなく平和の学びをどんな形で広げて行くのかについて問題提起してきたが、平和大使を経験された皆さんの思いと、教育委員会の考えについて教育長に伺う。
			(2) 「原爆と 人間展」 などの学 校・地域 への展開 について	①今年も8月3日から14日まで「つばめホール」で「原爆と人間展」が開催された。入場者数や寄せられた声などはどうだったか。どうしても、市役所に来庁された方がたまたま「原爆と人間展」の会場に足を踏み入れてみるということではないかと思う。時期を8月に限定することなく、小学生、中学生、高校生に学校で見てもらふことや、市民に広く平和問題を考えてもらふ機会として地域での開催も検討するなど、柔軟な平和事業の展開について市の考えをお聞きする。

発言 の 順序	発 言 す る 議 員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
3	田中 淑子 (一問一 答方式)	1. 燕市の市 政全般に ついて	(1) 聖籠町な ど他市町 村の比較 にもとづ く現状に ついて	2025年新潟日報で、街の幸福度ランキングと住みたい街ランキングで、聖籠町が1位でした。本市は幸福度では10位に入らず、住みたい方は4位です。2026年住み心地ランキング1位新潟市中央区、2位聖籠町、本市10位。行政サービス1位聖籠町、本市11位。単純に比較はできないものの、なぜこの小さな町が人気で魅力があるのかと思い、聖籠町から資料をいただきました。人口約14,000人、世帯数約4,800世帯。新新バイパスで道路が整備され車のアクセスが良く、新潟市、新発田市が近く、駅はないが便利。稲作やさくらんぼ、ぶどうなど観光農園が多くある。東港工業地域には火力発電所、免許センター、アルビレックスサッカー練習所、JAPANサッカーカレッジがあり、日本で唯一のサッカー総合専門学校がある。その上、国に先がけて平成17年から幼稚園保育料の無償化を実施したおかげで若い世代の転入も多く、20才代の結婚率、出生率も高い。土地が安価なこともあり、子育てのために、一定数流入している。 これらの状況を踏まえ、燕市の現状及び今後について次の6点を伺う。 ①吉田バイパスが着実に進んでいるが、いっそうスピードアップするために何か考えがあるのか伺う。 ②本市のサッカー場が完成したら、どのように活用し周知をしていくのか伺う。 ③企業誘致のさらなる発展の為にどのように取り組んでいくのか伺う。 ④SNSを使った子育て支援のさらなる強化の取り組みについて伺う。 ⑤市民に対してのアンケートは、対象者をどのように選んで結果を公表しているのか伺う。 ⑥家族の人数に応じて年に2回程度、有料ゴミ袋配付ができないか伺う。

発言 の 順序	発 言 す る 議 員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
4	近藤 隆行 (一問一 答方式)	1. 若者が自 らの可能 性を発揮 できる燕 市につい て	(1)スタート アップに ついて	①米国企業の最新の調査に、新規の法人設立を分析した結果、1人で起業するようなスタートアップの割合が63%を占めるという調査がある。また、世界的な大手IT企業の調査では、日本でAIを導入している企業において、スタートアップの導入率が80%を超え、大企業の68%や全国平均の43%を大きく上回っているとある。これは、AIなどの技術の急激な進化により、設備、施設、人材等の初期投資をしなくても、スタートアップできるという社会に大きくシフトしてきているという新たな動向である。また、AIの利用状況とその親和性から、若い世代がいち早くその傾向にあるとの調査もある。そこで、燕市の創業やスタートアップの現状を伺う。 ②市の現状のスタートアップや、創業における支援について伺う。 ③宮城県富谷市にはセミナー形式ではなく、通年を通じた創業支援である「富谷塾」という事業がある。富谷塾は定例会や様々なカリキュラム、市内施設の優遇、創業後のフォローアップなど、多角的かつ、伴走型の創業支援である。そして、創業を考えている人を手厚くサポートするだけでなく、様々な人と人とのつながりを醸成するというのも特徴的である。このような支援が市にも必要と考えるが、見解を伺う。 ④AIを活用した創業カリキュラムやスタートアップ支援が市にも必要と考えるが、見解を伺う。 ⑤スタートアップや創業に対する支援として、ビジネスプランコンテストを実施している自治体は全国的に少なくない。新たな事業に挑戦する人材を発掘、後押しするためにも、市でも必要と考えるが見解を伺う。
		2. 二次交通 の充実に よる観光 振興につ いて	(1)インバウ ンドを含 む観光客 の現状と 交通手段 について	①市では燕市観光振興プランが策定され、今年度よりスタートした。そのプランの戦略において、着地型観光を推進していくとあるが、インバウンドを含む観光客の現状と、その交通手段についての把握があるか伺う。
			(2)二次交通 の充実に ついて	①燕市観光振興プランの基本戦略の一つに、二次交通の充実とある。二次交通の現状について伺う。 ②国土交通省によると、シェアサイクルは面的な交通ネットワークとして生活利便性の向上に資するなど、様々な社会的課題に対応するための公共性を有しており、導入した地域では、「観光戦略の推進」、「公共交通の機能補完」、「地域の活性化」などの効果が確認されたとある。燕三条地場産業振興センターでは、レンタサイクルサービスが実施されているが、利便性の向上や二次交通の更なる充実のため、市においてもシェアサイクルの導入が必要と考えるが見解を伺う。

発言 の 順序	発言 する 議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
5	大島 靖浩 (一問一 答方式)	1. 人口減少 対策の実 効性と次 の一手に ついて	(1)人口戦略 (定住・ 活動・交 流)の評 価につい て	①これまでの施策の成果と数値評価について伺う。 ②人口戦略の各施策をどのような指標で評価しているか伺う。 ③効果が出ている施策と課題が残る施策について伺う。
			(2)若者層流 出につい て	①若者の支援策について伺う。 ②地元企業への就労支援について伺う。 ③「高校卒業」・「はたらく」・「地域おこし」を組み合わせたカリキュラムを提供する全国初の広域通信制高校サポート校である「ライトシップ」の教育内容について認識しているか伺う。
			(3)出生数減 少への直 接対策につ いて	①妊産婦支援の拡充の考え方について伺う。 ②子育て支援の質の向上について伺う。 ③経済的負担の軽減策について伺う。
		2. 産業の持 続可能性 と基盤強 化につい て	(1)事業承継 問題への 対応	①調査結果の分析について伺う。 ②承継支援メニューの拡充について伺う。
			(2)人材確保 の新しい 仕組みづ くり	①製造業の人手不足対策について伺う。 ②専門人材の誘致について伺う。 ③外国人材に対する支援について伺う。
		3. 不登校児 童・生徒 への支援 の強化につ いて	(1)支援体制 の人員強 化	①本市では不登校児童・生徒への支援に関して様々な専門スタッフを配置していると思われるが、配置状況について伺う。
			(2)学びの多 様化	①不登校児童・生徒への対策の現状と今後の方向性について伺う。 ②多様な学習環境の整備に係る校内外教育支援センターにおける個別最適化学習について伺う。

発言 の 順序	発言 する 議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
6	小林 由明 (一問一 答方式)	1. 持続可能 都市の実 現	(1) 社会経済 環境の変 化がもた らす将来 リスクに ついて	①少子高齢化や産業構造・労働市場の変化を背景に、人材確保の困難化や地域社会を支える担い手不足が深刻化しつつ、物価・賃金・エネルギー価格・金利の上昇、円安の進行など、社会経済環境が急激に大きく変化している。燕市は産業都市として多くの中小零細事業者が地域経済と雇用を支えているが、こうした状況が長期化・深刻化すれば、事業継続を困難にし、技術・技能の喪失や、雇用・地域所得の減少につながることで懸念される。こうした影響は既に顕在化しつつある。市民生活においても、物価上昇による家計負担に加え、買物・通院等の移動困難、医療・介護・商業など生活サービスの縮小、住宅取得・維持コストの増大などさまざまな影響が生じている。進行する社会経済環境の変化が、本市の地域経済や市民生活にどのような影響を及ぼしているか、市の認識を伺いたい。 ②現在の社会経済環境の変化は、本市が抱える構造的な課題をさらに深刻化させる可能性がある。こうした変化がもたらす将来リスクの分析を可及的速やかに実施し、その結果を今後の都市経営に反映していく必要があると考えるが、市の考えを伺いたい。 ③厳しい社会経済環境の変化は、公共施設の維持更新・新設等に係るコスト増、市債の利払い負担増、社会保障費の増大など、行政運営にも大きな影響を及ぼしている。一方、公共施設の維持更新はもちろん、各種補助・助成、手当、事業等についても、物価・人件費等の上昇を反映しなければ、実質的な行政サービスの縮減ということである。しかしながら、構造的問題が深刻化する中で、すべての施策に十分な資源を配分することは困難であり、より一層の選択と集中が求められる。特に、市民生活と地域経済を根底から支えるインフラの維持更新、移住定住等人口対策に関わる住環境整備・子育て支援、そして雇用や所得の基盤となる地域産業振興は、都市の持続可能性を左右する重要な課題である。厳しい社会経済環境下にあっても、本市の持続的発展に不可欠なこれら分野へ優先的かつ重点的に資源配分を行っていくべきと考えるが、市の認識を伺いたい。

(次ページへ続く)

発言 の 順序	発言 する 議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
6	小林 由明 (一問一 答方式)	1. 持続可能 都市の実 現	(2) 質の高い 都市環境 の実現に ついて	①都市の安全性、利便性、快適性を向上し、住民の生命財産を守り地域価値を高めるために、空き家を含む住宅等の耐震化、活用、解体を強力に推進していく必要がある。能登半島地震等を受け耐震解体支援が拡充されたが、さらなる防災意識の向上や制度周知を含め、耐震解体活用を強力に推進する取り組みの必要性について、市の考えを伺いたい。 ②都市の持続可能性を高めるために、居住・都市機能の集積、密度向上が必要であり、何年にもわたり市が懸命に取り組まれていることは理解している。一方で、居住誘導区域やその外縁の宅地開発等は続いているものの、都市機能誘導区域内への居住・都市機能集積は進みにくいのが実際である。既存の都市機能を維持するために欠かせない都市機能誘導区域内への誘導を、居住誘導区域よりも強力に推進する必要があるのではないのか。 ③都市の骨格であり、県内で類をみない高度な都市機能である弥彦線越後線は、質の高い持続可能都市を実現するためにも、それを守りその利便性を向上させるための沿線自治体としての取り組みも必要であると考えている。市民の利用促進や沿線への居住・都市機能集積に注力するとともに、他の沿線自治体やＪＲ等との連携した取り組みも必要であるが、市の考えを伺いたい。
			(3) 交通安全 対策につ いて	①住民からの署名提出を受け、東町11号線の交通安全対策に取り組んでいただいているが、速度超過で沿線家屋をかすめるような危険な走行車両は後を絶たない。三条市や警察からも協力いただき、すでに注意喚起看板や白線の設置、生活道路の標識設置などなされているが、改正道路交通法施行令の施行に合わせ、ハンプ設置など物理的デバイスによる対策等も含め、今一度関係機関と協力し生活の安全確保に取り組んでいただきたいがいかにか。 ②中央橋下交差点から燕橋下交差点間の逆走車両に関する情報提供や相談が後を絶たないばかりか、増加傾向にあると感じている。これまでも規制標識の位置を変えるなど取り組んでいただいたが、市街地中心部を貫通する通行量の比較的多い主要路線であり、高齢化率も高い地域で通学路ともなっていることから、より効果的な交通安全対策を講じていただきたいがいかにか。

(次ページへ続く)

発言 の 順序	発言 する 議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
6	小林 由明 (一問一 答方式)	1. 持続可能 都市の実 現	(4) 三八市の 出店場所 について	①三八市出店場所は市内の主要道路である。露店出店者はもちろん、露店利用者、沿線店舗、地域住民、通行止めによる迂回渋滞に巻き込まれる車両等に考えを致せば、現在のあり方は利益より不利益が大きいと感じている。道路上での開催ではなく空きスペースでの開催へと舵を切り、関係者の利益を最大化できるよう取り組むべきではないか。
7	藤井 秀人 (一問一 答方式)	1. 歴史、文 化等の資 源を生か した燕市 としての 観光振興 の考え方 について	(1) 観光資源 としても 重要な文 化財につ いての管 理・保全 の考え方 は	①令和5年3月議会において一般質問させていただいたが、その後、文化財の新たな登録や取り消し事例はあったのか伺う。 ②文化財調査審議で文化財の保存状況や現状把握は定期的に行われているのか伺う。 ③文化財の市民への定期的な発信や公開は実施されているのか伺う。 ④文化財に関する基金を活用した今後の文化財保護をどのように進めていくのか伺う。
			(2) 新分水史 料館につ いて	①収蔵庫の併設も考えているとの事だが、収納するものとしてどのようなものを考えているのか伺う。 ②今現在、小学校3校で良寛様のボランティアガイドを行っているが、新史料館の完成後は、全市学校で学習の場として活用していく考えがあるのか伺う。 ③市内の文化財全般も含め、自宅で管理出来ない・歴史的価値のあるものの保存の為の寄託を受け入れる考えがあるのか伺う。
		2. 大河津分 水路改修 事業によ る更なる 地域活性 化の考え について	(1) 大河津分 水路改修 事業によ る更なる 地域活性 化の考え について	①大河津分水路事業計画は、新たな整備の為、上流部4.9kmの追加により事業期間が2038年まで延長されたが、2015年事業開始より半分の時期を迎え、まわりの状況も徐々に変化してきているが、完成後の燕市としての姿をどのように描いているのか、その実現の為、今後どのような要望を出していられるのか、市長の考えを伺いたい。
8	田澤 信行 (一問一 答方式)	1. 部活動の 地域移行 事業につ いて	(1) 生徒の移 動手段に ついて	①地域クラブ活動の対象や活動日が拡大する中、生徒の活動場所までの移動問題は発生していないのか伺います。 ②送迎に伴う時間的・経済的負担を市としてどのように認識しているのか伺います。 ③地域クラブ活動を持続可能なものとするため、スクールバスや公共交通などの活用を検討しているのか伺います。
			(2) 保護者の 経済的負 担につい て	①「未来いきいき地域クラブ」に参加する場合、保護者が負担する費用はどの程度になっているのか伺います。 ②市は今後の地域展開によって保護者負担がどのように変化すると考えているのか伺います。

(次ページへ続く)

発言 の 順序	発言 する 議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
8	田澤 信行 (一問一 答方式)	1. 部活動の 地域移行 事業につ いて	(3)指導者の 確保と質 について	①地域のスポーツ経験者や競技経験者であることと、「子どもを適切に指導できること」は必ずしも同じではありません。指導者に対して、技術指導だけでなく、子どもの発達段階への理解、体罰・暴言・ハラスメント防止、安全管理などについて、市としてどのような研修や基準を設けているのか伺います。 ②子どもや保護者が安心して相談できる窓口や、指導者を評価・改善する仕組みは整っているのか伺います。
			(4)学校間・ 地域間の 格差につ いて	①競技によって参加人数や指導者数、活動施設などに違いがあり、さらに地域によっても活動環境に差が出るのではないかと危惧しています。市は現在、競技間、学校間、地域間で、地域クラブ活動への参加機会にどのような違いが生じていると認識しているのか伺います。
			(5)「子ども ファース ト」にな っている か	①燕市が進める地域クラブ活動について、実際に参加している子どもたち自身の意見や満足度、不安、不満などをどのような方法で把握しているのか伺います。
		2. 金属洋食 器分野に おける地 場産業成 長プラン の高付加 価値化に ついて	(1)金属洋食 器分野に おける地 場産業成 長プラン の高付加 価値化に ついて	①第一に、安価な海外製品との差別化について、市は具体的にどのような製品・機能・デザインを想定しているのでしょうか。単に「燕製品は品質が高い」という従来型のPRにとどまらず、海外製品にはない「燕ならではの価値」を、どのような商品として形にしているのか伺います。 ②計画に例示されている「カレー専用スプーン」「パスタ専用フォーク」「スイーツ専用カトラリー」などの用途特化型商品について、これらは単なる商品開発のアイデアとして示しているのか、それとも、今後、実際の商品開発につなげていく具体的な取り組みとして位置付けているのか、市の考えを伺います。 ③高付加価値化を実現するための役割分担として、製品企画やデザイン、ブランディングについては、個々の企業の努力だけでは限界があると考えます。市として、企業、デザイナー、研究機関、販売事業者などをつなぎ、燕市としての商品開発を支援する仕組みを構築する考えはあるのか伺います。 ④付加価値を高めることによって、具体的にどのような成果を目指しているのか伺います。「地場産業成長プラン」では、域内付加価値額を現在の約55億円から2035年度には69.7億円へ増加させる目標を掲げています。この目標を達成するためには、単に販売数量を増やすだけではなく、「より高くても選ばれる燕産カトラリー」をつくることが重要だと考えます。そこで、カトラリーについて、例えば従来品よりどの程度の価格プレミアムを実現することを目指しているのか、また、そのために今後どのような具体的な商品開発を進めていくのか、市の考えを伺います。

発言 の 順序	発言 する 議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
9	岡山 秀義 (一問一 答方式)	1. 市政運営 について	(1)「みんな でつくる 燕市」の 具体化と 持続可能 な市政運 営につい て	任期最後の一般質問となる。市政運営について問う。令和7年第4回燕市議会定例会において、市長から今後4年間の市政運営方針が示された。市長は「みんなでつくる燕市」を掲げ、その実現に向けて「稼ぐ燕市」「育てる燕市」「燕はひとつ」という3つの方向性を示された。いずれも、人口減少や産業・農業の担い手不足、子育て・教育環境、地域コミュニティの維持など、現在の燕市が抱える課題を踏まえた重要な政策であると受け止めている。一方で、所信表明では多岐にわたる施策が示されていることから、今後市長任期4年間で何を最優先に実現するのか、また、その成果をどのように検証していくのかについて、具体的に伺う。 ①「みんなでつくる燕市」の実現について市長は、行政だけでなく、市民・企業・地域・各世代がそれぞれの強みを生かし、共にまちづくりを進める「みんなでつくる燕市」を掲げている。市長が考える「みんなでつくる」とは、具体的にどのような仕組みを構築することなのか伺う。 ②市民・企業・団体などから政策提案を受け、それを市政にどのように反映させるか、新たな仕組みを設けるのか伺う。すでに取り組んでいることがあれば伺う。
			(2)「稼ぐ燕 市」につ いて	市長は、製造業、農業、商業、観光を通じて地域経済を活性化し、その成果を市民の豊かな暮らしにつなげる「稼ぐ燕市」を掲げている。特に、製造業については「新たな産業の創出」「販路拡大」「働きやすい職場づくり」の3つを柱とされている。 ①「新たな産業の創出」について、行政が具体的にどのような支援を行い、どのような成果を目指すのか伺う。 ②企業誘致について、現在の市内の産業用地の状況をどのように認識しているのか。また、新たな産業用地の確保を具体的に検討する考えはあるのか伺う。 ③「稼ぐ燕市」を実現した結果を、市民の所得向上や雇用創出にどのようにつなげていくのか、市長の考えを伺う。

(次ページへ続く)

発言 の 順序	発言 する 議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
9	岡山 秀義 (一問一 答方式)	1. 市政運営 について	(3)農業の担 い手確保 と「稼げ る農業」 について	燕市農業においては、担い手の高齢化や後継者不足が深刻な課題となっている。市長は、農業を始めたい人が就農から経営安定まで一貫して支援する仕組みを構築するとしている。 ①新規就農者を確保するため、これまでの支援策に加えて、どのような新しい仕組みを構築するのか伺う。 ②新規就農者が農地を確保し、技術を習得し、安定した所得を得るまでを、市としてどのように伴走支援するのか伺う。 ③「稼げる農業」を実現するため、農産物のブランド化、加工、直販、ふるさと納税、観光などを組み合わせた農業所得向上策を進めるべきと考えるが、見解を伺う。
			(4)「育てる 燕市」と 子育て支 援につい て	市長は、「育てる燕市」を掲げ、子育て支援のさらなる拡充を表明した。一方、全国的に自治体間の子育て支援競争が激しくなる中、単に支援メニューを増やすだけではなく、「燕市で子どもを産み、育てたい」と思ってもらえる環境全体を整えることが重要だと考える。 ①市長が考える「燕市ならではの育て支援」とは何なのか伺う。 ②子育て世帯が実際に負担を感じている経済的負担、仕事と子育ての両立、保育環境などについて、今後どの分野を重点的に拡充するのか伺う。 ③子育て支援策の拡充を、出生数の回復や子育て世帯の定住につなげるため、どのような成果指標を設定するのか伺う。
			(5)障がいの ある子ど もへの支 援につい て	市長は、「障がいは、その人にあるのではなく、社会の側にある」という考えを示し、障がいのある子どもへの支援を重点政策として掲げた。これは非常に重要な視点であると考えている。 ①5歳児健診によって支援が必要と判断された子どもについて、健診後から療育・教育・福祉につなげるまでの支援体制をどのように構築していくのか伺う。 ②専門的な資格を持つ人材を活用するとしているが、具体的にどのような専門職を想定しているのか。また、人材確保をどのように進めるのか伺う。 ③医療的ケア児や重症心身障がい児について、保護者の負担軽減だけでなく、本人が地域社会の中で学び、遊び、成長できる環境をどのように整えていくのか伺う。

(次ページへ続く)

発言 の 順序	発言 する 議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
9	岡山 秀義 (一問一 答方式)	1. 市政運営 について	(6)「燕はひとつ」と地域コミュニティについて	市長は、自治会やまちづくり協議会などの地域活動を重要なまちづくりの基盤と位置づけている。しかし、地域では担い手不足や役員の高齢化など、活動そのものを維持することが難しくなっている現状もある。 ①地域活動への支援について、従来の補助金などによる支援に加え、担い手確保や事務負担軽減まで踏み込んだ支援を行う考えはあるのか伺う。 ②若い世代が自治会や地域活動に参加しやすくするため、デジタル技術の活用や参加方法の多様化を進める考えはあるのか伺う。 ③市長自身が地域に出向き、市民と直接対話する機会を増やすとのことだが、現状とどのような声があるのか伺う。
			(7)人口減少を前提とした行財政改革について	市長は、人口減少が避けられないことを前提に、持続可能な市政運営を進める必要があるとしている。一方、市民サービスを維持しながら公共施設の統廃合などを進めるためには、市民の理解と丁寧な説明が不可欠である。 ①市長が考える「持続可能な燕市」とは、具体的にどのような財政・行政の姿なのか伺う。 ②公共施設の統廃合・集約化について、今後どのような考え方で対象施設を選定し、市民との合意形成を図っていくのか伺う。
			(8) A I ・ D X の活用について	市長は、A I の活用などD Xを一層推進し、市民サービスの向上と業務効率化を図るとしている。今後、人口減少によって職員確保も難しくなることを考えれば、D Xは単なる業務効率化ではなく、行政サービスを維持するための重要な政策になると考える。 ①A I ・ D Xについて、今後4年間でどの行政分野を重点的にデジタル化していくのか伺う。 ②A I の導入によって職員の業務を削減するだけでなく、政策立案や市民サービスの向上に活用する考えはあるのか伺う。 ③D Xを進める一方で、デジタル機器の利用が困難な高齢者等が行政サービスから取り残されないための対策をどのように講じるのか伺う。

(次ページへ続く)

発言 の 順序	発言 する 議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
9	岡山 秀義 (一問一 答方式)	1. 市政運営 について	(9)実現性について	最後に、市長が掲げる政策の実現性について伺います。市民から見れば、4年後に燕市がどのように変わったのかを具体的に検証できることが重要だと考える。 ①「稼ぐ燕市」「育てる燕市」「燕はひとつ」について、それぞれ具体的な数値目標や成果指標を設定する考えはあるのか伺う。 ②市長任期4年間の中で、特に「これは実現したい」と考えている最重要政策は何なのか伺う。 ③4年後、市民から「この4年間で燕市は良くなった」と評価してもらうために、どのような燕市を実現したいと考えているのか、市長の決意を伺う。
10	齋藤 和也 (一問一 答方式)	1. 「稼ぐ燕市」の成果検証と地域に利益が残る産業政策について	(1)「稼ぐ燕市」の成果検証と地域に利益が残る産業政策について	「稼ぐ燕市」は、令和8年度当初予算において、市長が「稼ぐ燕市・育てる燕市・燕はひとつ」の一つとして掲げた、市政の将来を左右する重要な政策理念である。しかし「稼ぐ」という以上、その成果はできる限り数値で説明される必要がある。補助金の交付件数、展示会への出展件数、相談件数、イベント来場者数。これらは重要な実績ではある一方で、「稼いだ成果」そのものではない。政策によって、企業の売上が伸びたのか。付加価値が増えたのか。雇用が増えたのか。給与が増えたのか。新たな民間投資を呼び込めたのか。地域外から燕市へ資金を獲得できたのか。地域内に利益が残ったのか。この視点から「稼ぐ燕市」を評価する必要がある。 ①「稼ぐ燕市」に位置付けられる主要な産業振興施策について、事業費や支援企業数などの実施量に加え、支援先企業の売上・付加価値、賃上げ、雇用、民間投資誘発額、域外売上、税収等の成果を、支援後1年・3年といった期間で継続的に追跡・把握する仕組みを設けているか伺う。 ②市長が考える「稼ぐ燕市が実現した状態」とは具体的にどのような状態なのか。また、その進捗を、補助件数等の実施量指標ではなく、従業者1人当たり付加価値額のような労働生産性や賃金水準等の成果指標でどのように評価していく考えか伺う。

(次ページへ続く)

発言 の 順序	発言 する 議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
10	齋藤 和也 (一問一 答方式)	1. 「稼ぐ燕 市」の成 果検証と 地域に利 益が残る 産業政策 について	(2) 稼ぐ力を 高める支 援への転 換につい て	①令和8年度は、D X計画策定支援やI S O等認証取得補助の拡充等の製造業・卸売業を対象とした事業、つばめ稼ぐ農業支援事業等の農業分野、燕ソウルフード観光プロモーション事業の拡充、インバウンド対応に関する調査事業等の観光に関する取組など、稼ぐ力を高める新たな取り組みが始まっている。これらの事業について、導入件数や調査実施といった実施量にとどまらず、生産性や価格転嫁、新規受注、後継者不在企業への支援策など、経営成果に結び付ける考えはあるか伺う。あわせて、高付加価値化、自社ブランド、デザイン、知的財産、海外市場など、企業自身の収益力を高める支援について、今後3年程度を見据え、市としてどの分野、どの企業群を重点的に伸ばしていく考えか、市の見解を伺う。
		2. 人口減少 社会にお ける生活 基盤の再 設計につ いて	(1) 公共交通 について	人口減少・高齢化が進む中、自家用車を利用できない高齢者や学生等の移動手段を確保することは、市民生活を維持する上で重要な課題である。公共交通を単に「維持する」という視点だけでなく、利用実態をデータで把握し、限られた車両・人員・財源の中で、より利便性の高い交通体系へ改善していく視点が必要である。 ①おでかけきららん号について、年間利用者数だけではなく、電話・WEB別の予約成立件数・不成立件数とその理由、乗合率、実車率、時間帯別・地区別利用状況、1人当たりの行政負担額等を分析することで、潜在的な移動需要や運行上の課題を把握する必要があると考える。現在どのようなデータを収集・分析し、運行改善に活用しているのか伺う。 ②民間路線バスの一部区間で廃止・減便が実施され、公共交通サービスが低下している地域について、市は今後どのように移動手段を確保していく考えか。また、スワロー号、きららん号、コミュニティバス、タクシー等を個別に考えるのではなく、地域公共交通全体を最適化する視点から再設計する考えがあるか伺う。

(次ページへ続く)

発言 の 順序	発言 する 議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
10	齋藤 和也 (一問一答方式)	3. 子どもの可能性を最大化する教育成果の可視化について	(1) A I 時代の教育について	令和6年第2回定例会でも同様な質問を致しました。生成A Iの急速な普及により、これからの子どもたちには、単にA Iを使える能力だけでなく、A Iの回答を疑い、情報を検証し、自ら問いを立て、考え、判断する力が求められている。国は令和6年12月に生成A Iの利活用に関するガイドライン Ver2.0を公表し、令和5年度から教育利用・校務利用・教材実証の生成A Iパイロット校事業を実施している。新潟市や加茂市など近隣自治体も積極的に活用について研究を進めている。 ①燕市として、生成A Iを含めたA Iリテラシー、情報活用能力、探究的な学びを今後どのように教育課程の中で育成していく考えか改めて伺う。 ②燕市の強みであるものづくり産業と連携した探究学習への発展や、国のパイロット校事業等への応募を検討する考えはあるか。 ③生成A Iについては、児童生徒の学習支援だけでなく、教材作成、文書作成、授業準備等の校務に活用することで教職員の負担軽減につながる可能性もある。国のガイドラインや実証事業を踏まえた生成A I活用の現状と今後の方針や具体的な取組を伺う。
11	稲村 隆行 (一問一答方式)	1. 自治会について	(1) 人口減少を踏まえた自治会の今後のあり方について (2) 自治会の将来像について	①人口減少や高齢化が進む中、自治会の担い手不足や地域活動の維持について、今後10年、20年と人口減少が進んだ場合、自治会活動の維持が困難となる地域が生じる可能性も考えられるが、市としてどのような見通しを持っているか伺います。 ②自治会が果たす役割のうち、特に重要なものは何であると考えているか、市の認識を伺います。 ①人口減少や高齢化が進む中、将来、燕市はどのような自治会の姿が望ましいと考えているか、市の見解を伺います。 ②将来望ましいと考える自治会の姿を実現するため、市としてどのような支援が必要と考えているか、見解を伺います。

(次ページへ続く)

発言 の 順序	発言 する 議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
11	稲村 隆行 (一問一 答方式)	2. 農業について	(1)人口減少 を踏まえ た農業の 将来像に ついて	①農業従事者の減少や高齢化が現在の傾向で進んだ場合、10年後、20年後の燕市における農業従事者数や担い手一人当たりの耕作面積について、どのような見通しを持っているか。また、耕作困難な農地や荒廃農地が増加する可能性や時期について、市として分析しているか伺います。 ②農地を一定程度集積・集約し、複数の中核的な農業経営体が地域農業を支える一方、小規模農家や兼業農家等もそれぞれの役割を担うなど、特定の経営体に過度に依存しない農業構造が必要と考えるが、市の見解を伺います。 ③人口減少の将来推計が示されている中、2040年頃の燕市として、どの程度の農地面積や食料生産能力を維持することが望ましいと考えているか、市の見解を伺います。
12	齋藤 信行 (一括質 問一括 答弁方式)	1. 合併20周年の現状と未来について	(1)市職員の働き方改革について (2)教職員の働き方改革について (3)教職員の部活動について (4)市の現状と未来について	①私が役所にかかわるようになってから30数年過ぎましたが、その間に合併もあり20年過ぎました。その後は仕事もアナログからデジタル、最近はA Iなどと言われています。そこで職員にも年齢によってギャップがあるのではないかと、コミュニケーションの取り方など色々な面で仕事も変化していると思います。働き方の現状と未来について伺います。 ②職員の教育とケアについても伺います。 ①教職員の働き方改革の現状と未来について伺います。 ②教職員の教育とケアについても伺います。 ③アナログからデジタル年齢による教職員のギャップ、コミュニケーションについて伺います。 ①部活動が外部活動へ移行になるが、働き方改革の中で教職員の部活動の関わりがどう変わるのか伺います。 ①市の現状と未来について市長、教育長に伺います。都市計画マスタープラン、教育立市宣言、児童生徒数の減少など、令和6年9月の一般質問で鈴木前市長と教育長に5年先、10年先の燕市について聞いています。また、南波前副市長は令和6年6月の退任に当たり、議論をこの言論の府でと話しておりました。そういう議論を現市長になった時の夢、約1年過ぎた現実と未来はどうあってほしいか伺います。
		2. 農業問題について	(1)イノシシ対策について (2)後継者と米価	①農作物へのイノシシの被害対策について伺います。 ①市における後継者と米価について伺います。

発言 の 順序	発言 する 議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
13	中山 眞二 (一問一 答方式)	1. 基金について	(1) 基金の活用について	①基金残高、現金残高はどのくらいか。又、今後の増減はどのように予測しているのか。 ②増え続ける傾向にある基金だが、適切な基金残高とはどのくらいなのか。 ③基金の運用利息を奨学金の給付型に使っては如何か、市としてはどのように考えているか。 ④基金を取り崩してやりたい大きな事業はあるのか、小出しにしないで夢のある名前通りの使い方をどのようにしていくのか伺う。
		2. 縮小する時代に備えた施策について	(1) 5年後10年後の人口減少に備えた施策は大丈夫か	①人口減少についての基本的な考えを伺う。 ②人口減少に合わせた組織職員体制はどのようにしていくのか、今一度聞きたい。 ③参加率の減っていく自治会のあり方について考えを伺う。 ④市民参加で成り立っている市民サービスは多くあり、手伝い、参加するのはいいが役員はしたくないという人が多い。役員に対する報酬の考え方を伺う。 ⑤学校、保育園の統廃合など、建物系の縮減は順調に推移しているのか伺う。 ⑥特定空き家の処理は順調に推移しているか伺う。
		3. 国上道の駅周辺の整備について	(1) 良寛史料館について	①現在の入館者、入館料はどれくらいか。 ②入館者を増やすために現在どのような努力をしているか伺う。 ③計画する良寛史料館の必要性和集客するための施策を伺う。
			(2) 施設拡大と指定管理者について	①良寛史料館とのコラボと駐車場の活用について伺う。 ②他の施設と複合による誘客拡大について、考えはあるのか。 ③指定管理者の自由度と市との関係について考えを伺う。
		4. AIの活用について	(1) AIの活用について	①DXの対応を迫られているうちにAIの時代になってきた。我々議会でも本音トークができないとAIで対応などということになりかねない。今後AIの活用で行政はどのように変わっていくのか、又変えていくのか伺う。

発言 の 順序	発 言 す る 議 員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
14	小林 秋光 (一問一 答方式)	1. 法人・民間・企業 建築におけるアス ベスト対策の推進 と市民の安全確保 について	(1) アスベスト含有調 査費補助事業の推 進状況と課題につ いて	大気汚染防止法等の改正に伴い、建築物の解体や改修時におけるアスベスト事前調査が義務化され、建物の所有者や管理者の費用負担が増加しています。本市におきましては、調査費に対する補助制度を実施しているところですが、調査の結果、実際にアスベストが発見された場合の「除去・解体費用」に対する特化した補助制度は存在しません。そのため、高額な工事費用負担を理由に施工が見送られ、そのまま放置されることで飛散リスクが高まるのではないかと懸念が寄せられております。市民の安全確保の観点から、今後の対策について以下を伺う。 ①本市における「アスベスト含有調査費補助事業」のこれまでの利用実績と、実際の運用のなかで見えてきた課題について伺う。 ②事前調査後にアスベストが発見されたものの、「除去・解体工事」に対する補助制度が未整備である状況に対し、市としてどのような認識を持っているか伺う。 ③国の「住宅・建築物安全ストック形成事業」等の国庫補助金を有効活用し、本市としても新たに「除去・解体費用への補助制度」を創設すべきと考えますが、見解を伺う。
		2. 燕市合併 20周年記念事業 「みんなでつくる う燕デジタル花火 大会」の検証と今 後の展望について	(1) 事業検証 と費用対 効果につ いて	市庁舎壁面を活用して開催された「みんなでつくるう燕デジタル花火大会」について、事業費に対する費用対効果や市民満足度などの実績検証に関連して伺う。 ①本事業の予算に対する費用対効果、および実施後の市民満足度の検証結果について伺う。 ②当日庁舎へ来られなかった市民に対し、動画配信やアーカイブ公開などの広報展開がどのように行われたのか伺う。 ③市民参加型コンテンツやデジタル技術を活用した本事業の成果を今後どのように活用して行くのか伺う。
			(2) 今後の花 火大会開 催につ いて	①従来の打上げ花火大会の再開を望む市民の声に対し、会場選定の現状と課題、ならびに今後の燕市における花火事業全体の方向性について伺う。 ②打上げ花火の会場が決まらない場合、次年度もデジタル花火大会という形で開催する想定なのか伺う。

(次ページへ続く)

発言 の 順序	発 言 す る 議 員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
14	小林 秋光 (一問一 答方式)	3. 学校統合 後の跡地 利用と安 全確保に ついて	(1) 旧松長小 学校の跡 地利用と 管理体制 について	①旧松長小学校の校舎および体育館について、現状の利 活用状況と今後の見通しについて伺う。 ②閉校後の校舎・施設の管理体制について、自治会など 地域主体での管理となるのか、市としての方向性を伺 う。
			(2) 交 通 安 全・通学 体制の確 保につい て	①スクールゾーン廃止に伴うメリットとデメリットに ついて、市としてどのように認識しているか伺う。 ②路上や集会所でのスクールバス乗降時における安全 確保に向け、児童や一般車両へ周知するための「バス 停留所標識」設置の必要性について、市の見解を伺う。
15	山崎 光男 (一問一 答方式)	1. 燕市での 多文化共 生につい て	(1) 多文化共 生のまち づくりに ついて	①総務省によれば、多文化共生とは、「国籍や民族など の異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、対等な 関係を築こうとしながら地域社会の構成員として共 に生きていくこと」とある。市民とのふれあいトーク 2026に外国人住民の参加者はいたか。留学生など様々 な在留資格の人の意見や要望、提案にもっと耳を傾 け、燕市のまちづくりに生かしてはどうか、所見を伺 う。
			(2) 多文化共 生イベン トについ て	①9月20日に「つばめ多文化共生サッカーフェスティバ ル」を開催するが、スポーツの他、アジアの国に多い 旧正月を祝う行事など、文化面での交流ももっと推進 してはいかがか伺う。
			(3) 多文化共 生事業に ついて	①令和8年度予算では、職員向けに「やさしい日本語」 研修の実施や、それを使用した生活ガイドブックを作 成とあったが、その後の進捗状況は。また多文化共生 推進員としての地域おこし協力隊募集の現況につい て、それぞれ伺う。
			(4) 多文化共 生推進プ ランにつ いて	①燕市では、人口の減少に反して外国人登録者数、その 国籍数は増加の一途を辿っている。総務省は、2006年 に「地域における多文化共生推進プラン」を策定し、 2020年に改訂した。これからの多文化共生社会に向け て、燕市も独自にこのプランを新たに作成してはいか が。当局の見解を伺う。

(次ページへ続く)

発言 の 順序	発 言 す る 議 員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
15	山崎 光男 (一問一 答方式)	2. 国上地域の活性化 や環境整備について	(1) 国上山周辺について	①国上山周辺には、フットパス（ウォーキングコース）が整備され、HPにも掲載されているが、現地にはそれを明示する看板が無い。新たな看板設置やフットパスマップ作成を含め、コース全体を見直してみてはどうか、所見を伺う。 ②国上山と五合庵は「にいがた景勝100選」に選ばれ、国上山は「新潟県森林浴の森100選」にも選ばれていて、小さな看板はあるが、市としてもっとPRできないか伺う。
			(2) 分水ビジター・サービスセンター周辺について	①分水ビジター・サービスセンターの駐車場に隣接した森林の樹木の腐朽が顕著で、樹皮が駐車場に剥がれ落ちることから、駐車場の一部が利用できない事態が続いている。また全景案内図の移設についても要望を受けたが、それぞれ今後の方策について伺う。 ②分水ビジター・サービスセンターなどの施設について、市は解体・撤去を含めて、今後の在り方を検討する方針との報道があったが、これについて現時点での詳細を伺う。
16	宮路 敏裕 (一問一 答方式)	1. 学校給食保 護 者 負担の軽減について	(1) 学校給食保 護 者 負担の軽減事業について	①国の交付金を活用し、本年4月より小学校給食費の保護者負担ゼロの措置が始まり、「この物価高の中、本当に助かる」と大変喜ばれている。この取り組みにあたり、現在課題など無いのか伺う。 ②来年度については、国の制度や財政状況の変化により、負担ゼロを継続できるかは断言できないと、当初明言されているが、国の動向についてどう捉えているのか伺う。
			(2) 中学校給食費無償化について	①中学校給食費無償化については、2025年当時の「三党合意」で先ずは小学校、さらに「中学校への拡大もできる限り速やかに実現する」としているが、国の動向について把握していることはあるのか伺う。 ②新潟県内自治体で中学校給食費の無償化実施状況について、把握していることを伺う。 ③他県では、県と市町村の財政分担によって、給食無償化に取り組んでいる。市として県に財政支援の働きかけを求めることも重要ではないか、認識を伺う。
		2. 国民健康保険制度について	(1) 国保税均等割の軽減について	①国の制度改正により、来年4月から国保税均等割の5割軽減の対象が18才以下に広がるが、当市での概算人数と世帯数ではどうか。また、国保加入世帯の何%に相当するのか伺う。

(次ページへ続く)

発言 の 順序	発 言 す る 議 員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
16	宮路 敏裕 (一問一 答方式)	2. 国民健康 保険制度 について	(2) 子ども医 療費助成 について	①当市では18才以下の子どもの医療費について、入院は全額補助、通院では1回530円、一月4回までは同じ額で支払い、5回目以降は補助となっている。一方、県内では、子どもの入院も通院も全額補助とする措置の自治体があるが、把握していることを伺う。
			(3) 国保税の 負担軽減 について	①国保加入世帯は、高齢者や非正規雇用など低所得比率も高く、会社員加入の協会けんぽと比較し、より高い保険税負担に置かれる構造的問題がある。全国知事会や全国市長会は、国費1兆円の投入により、税負担の軽減を国に提言している。現在、物価高、終息が見えない中東情勢の下、国保加入者にとっても厳しい生活状況を強いられていることにも鑑み、当市としてできる国保税負担軽減に取り組むことを求めるが、認識を伺う。
17	タナカ・ キン (一問一 答方式)	1. 燕市名誉 市民につ いて	(1) 市民への 周知と名 誉市民の リスペク トについ て	①7月に市民厚生常任委員会の視察で、山形県の長井市を訪れた時のことである。庁舎に入っすぐ目につく場所に、長井市の名誉市民の方3名の写真が立派な額に入れて飾られていました。素晴らしいと思いました。燕市はどうかといえば、庁舎3階の市民が普段訪れることが無い場所の壁に掛けてあります。こんなのでは、市民の中に名誉市民が誰か答えられる人はいるのだろうか。私たち議員や市の職員はどうだろうか。燕市の名誉市民は10名なのだが、残念ながら私も4名しか答えられないのである。こんなことでいいわけがない。もっと市民の目に入る場所に飾ることは考えられないか伺う。もちろん業績の紹介でもある。
		2. 夏の暑さ 対策につ いて	(1) 吉田ふれ あい広場 について	8月9日の日曜日、この日は暑かったのであるが、こんな日でも外で遊ぶ子どもがいるのか。吉田ふれあい広場に出かけてみた。大型の遊具で遊んでいる親子連れ、広場でバーベキューを楽しんでいる大勢の大人と子どもたち、こんなに暑いと水を浴びたくなるだろう。吉田親水公園には噴水やミストシャワーの装置があるが、ここに来るのは近所の親子だろう。ちなみに、この日は誰もいなかった。それにひきかえ吉田ふれあい広場は、市外の人遊びに来る。これでサッカー場が整備されればなおのことだろう。こういう場所にこそ、夏場だけでもミストシャワーがあればうれしいと思う。ちなみに「SORA IRO 国上」にはミストシャワーの装置があり、さすがだと感心している。 ①来年は、簡易式のミストシャワーを設置できないだろうか伺う。 ②広場にトイレがあるのだが、男子トイレが和式なのである。改善する必要があると思うが伺う。また、女子トイレはどうなっているか伺う。

(次ページへ続く)

発言 の 順序	発言 する 議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
17	タナカ・キン (一問一答方式)	3. 燕市役所 燕庁舎の 利活用について	(1)「燕庁舎 学習室」 について	昨年の12月15日に、燕庁舎2階に「燕庁舎学習室」がオープンした。ここは旧水道局執務室があった場所である。 ①現在の利用状況を伺う。 ②学習室のルールを伺う。 ③いまだに燕市役所燕庁舎となっているが、現在も庁舎機能があるのか伺う。 ④「燕庁舎学習室」というネーミングは、なんとも硬すぎるのではないかと思うが伺う。 ⑤1階部分は現在活用されていないが、今後の予定があるのか伺う。
		4. 公金事務 手数料問題について	(1)公金事務 手数料問題について	現在、市税などの公金を窓口で支払う際、市民は手数料を払わなくてよいが、市から金融機関へ手数料を支払う必要がある。公金事務は1964年の制度発足以来、ほとんど無償で提供されてきた。ところが、手数料の新設や値上げを要請されるケースが近年増えてきている。 ①こうなった理由について伺う。 ②燕市は、いつから手数料を支払うようになったのか伺う。 ③納付方法は何種類かあると思うが、その種類と税目別の件数・決算額を伺う。 ④それぞれの一件当たりの単価を伺う。 ⑤全国トップクラスの負担事例について伺う。 ⑥燕市においても、今後手数料の引き上げも十分考えられるが、その可能性について伺う。 ⑦全体の合計額を減らす為には、どうすれば良いか伺う。